

研究主題 岩手県内特別支援学校・特別支援学級・通級指導教室における自閉症のある児童生徒への指導・支援状況に関する調査

【研究担当者】	佐藤 一也	佐々木 恵理子	【この研究に対する問い合わせ先】 TEL 0198-27-2821 FAX 0198-27-3562 E-mail sien-r@center.iwate-ed.jp
	梅野 展和	佐々木 一義	
	最上 一郎	古川 制子	
	大谷 哲弘	五安城 正敏	

I 調査目的

この調査は、国立・県立特別支援学校・特別支援学級・通級指導教室を対象に、自閉症のある児童生徒の実態や教育課程、指導・支援状況等を明らかにするためのものです。

II 調査対象及び回収状況

- 国立・県立特別支援学校：学級担任 11校／11校（回収率 100%）
- 小学校：特別支援学級担任・通級指導教室担当者 176校／207校（回収率 85%）
- 中学校：特別支援学級担任・通級指導教室担当者 80校／117校（回収率 68%）

III 調査結果の分析と考察

1 自立活動の基本的な考え方等の理解

すべての学校種において、自立活動の必要性は感じているものの、自立活動を進める上で配慮すべき事項等に取り組んでいる学級は少ない状況でした。必要とは思いつつも、具体的にどのように進めていけばよいのか、十分に理解されていないことが考えられます。特別支援学校の学習指導要領の改訂において、自立活動の内容等の見直しが行われました。あらためて、自立活動の基本的な考え方やその内容について理解を図り、指導・支援を進めていくことが必要と考えます。

2 指導に当たる教師間の指導場面や指導内容、支援方法の共通理解

特別支援学校においては、共に授業を行う教師間での共通理解は行われていますが、十分とは言えない状況が見られました。特別支援学級、通級指導教室の担任は、共通理解の不足を課題と思いつつも、具体的な解決が図られないまま指導・支援を行っていると考えられます。どの学校種においても、共通理解を図るための時間や場の設定、進め方等に難しさを感じていると思われます。学級や学年等の状況に応じた、共通理解を図るための具体的な取組方法を検討し、実施していくことが望まれます。

3 児童生徒の教育的ニーズに即した目標の設定

すべての学校種において、自立活動における優先する目標を設定して学習活動に取り組んでいる学級は少ない状況でした。自立活動との関連を明らかにし、教育的ニーズに即した目標を明確に設定した上での指導・支援が十分に行われていないことが考えられます。自立活動の具体的な進め方に関する理解が不足しているためと思われます。教育的ニーズに即した目標を設定し、指導場面に応じて具体的な目標や指導内容、支援方法を検討しながら進めることが必要と考えます。

4 それぞれの指導形態のよさを生かした指導

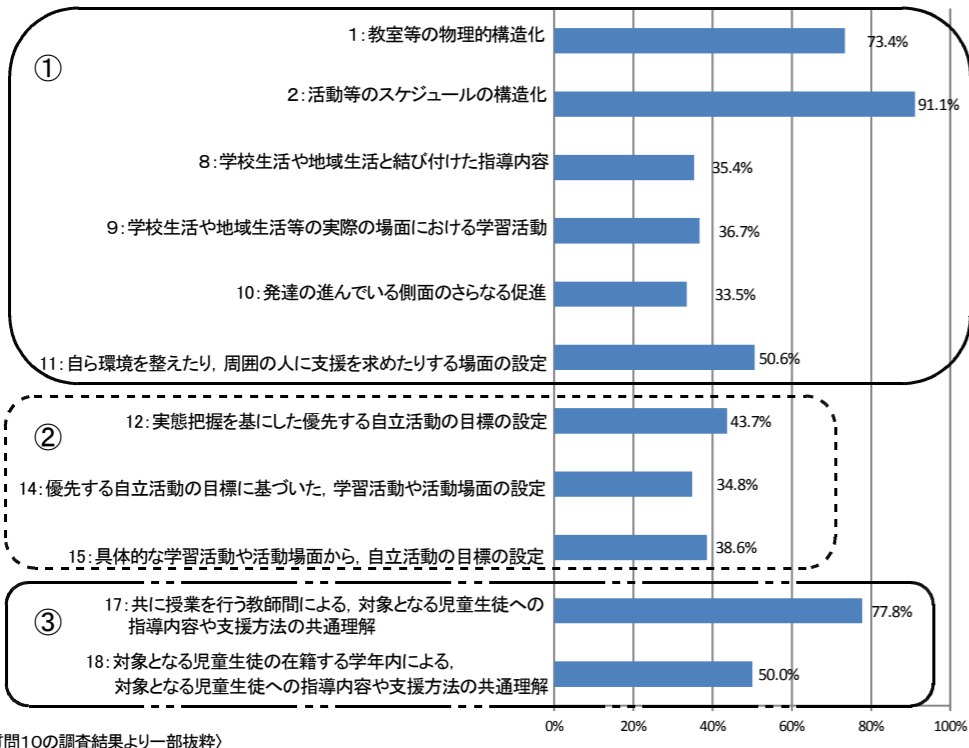
すべての学校種において、他者とのかかわりへの困難さに対応するために、意思伝達や集団参加に関する指導内容を多く取り入れています。しかしながら、「領域・教科を合わせた指導」、「教科別・領域別の指導」及び「特設した自立活動の指導」の取組を見ると、学習活動が実際の生活と十分に結び付いていない状況でした。それぞれの指導形態のよさや特徴を再確認し、どのように生かしていくかを検討しながら指導・支援を行う必要があります。

5 個別の指導計画の活用

特別支援学校においては、個別の指導計画を共通理解資料や引継ぎ資料として活用している割合が高かったものの、特別支援学級と通級指導教室では、共通理解等にはあまり活用されていない状況が明らかになりました。一方、すべての学校種において、単元計画の作成や一貫した指導・支援を行うための活用は十分に行われていない状況でした。設定した目標や指導内容をどの指導形態のどの場面で指導・支援を行っていくのかを明確にし、職員間で共通理解を図りながら具体的な取組を行うことが必要と考えます。

特別支援学校

自閉症のある児童生徒への自立活動を取り入れた指導・支援の取組 **N=158**
(回答者: 自閉症のある児童生徒が在籍する学級担任)



① **指導内容と支援方法の取組**
 ・適切な指導内容の設定に当たっては、十分な取組とは言えない状況です。
 ・障がいの特性を踏まえた構造化などの支援方法は充実しています。

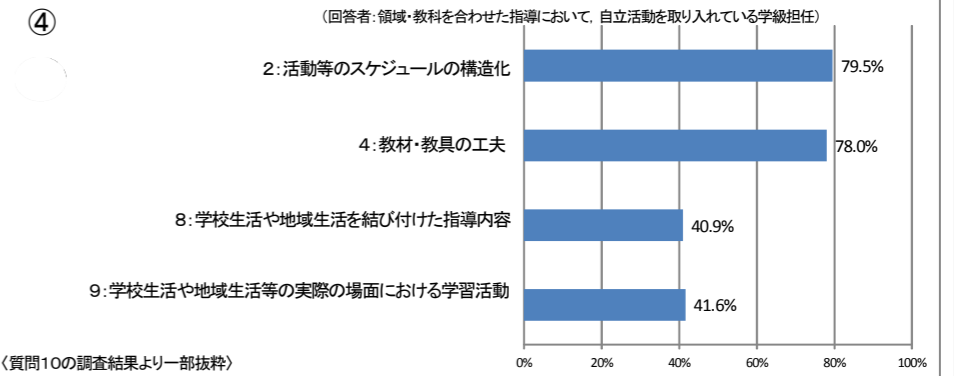
② **目標の設定**
 ・優先する目標を設定して学習活動を行っている学級は約4割です。
 ・具体的な学習活動や活動場面から、自立活動の目標を設定している学級も約4割です。
 ・目標を明確に設定しないまま、その時々活動に応じて目標を設定して学習を進めている学級が存在していることがうかがわれます。

③ **教師間の共通理解**
 ・共に授業を行う教師間で共通理解を行っている学級は約8割です。
 ・ティームティーチングで学習活動を進めることの多い特別支援学校において、決して高い割合ではないと思われます。

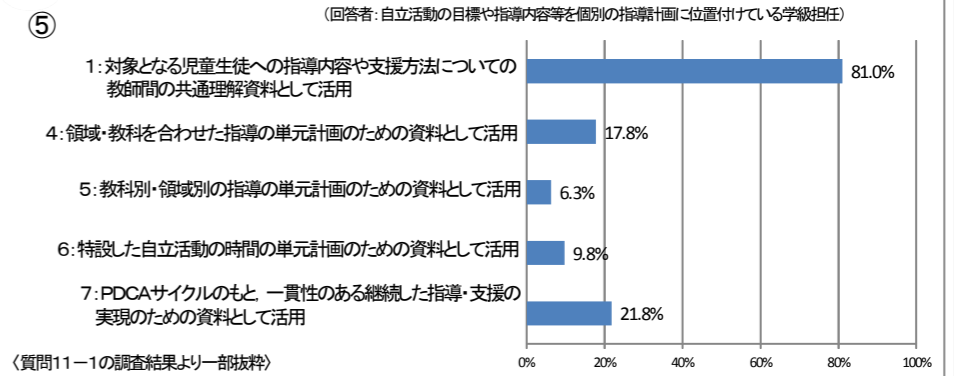
④ **指導形態のよさを生かした指導**
 ・領域・教科を合わせた指導において、学校生活や地域生活等に関する学習を取り入れている学級は約4割です。

⑤ **個別の指導計画の活用**
 ・個別の指導計画を教師間の共通理解資料として活用している割合が高いです。
 ・指導形態における単元計画の資料としての活用は十分とは言えず、設定した目標等が授業に生かされていないことがうかがわれます。

領域・教科を合わせた指導において、自立活動を取り入れた指導・支援の取組 **N=132**

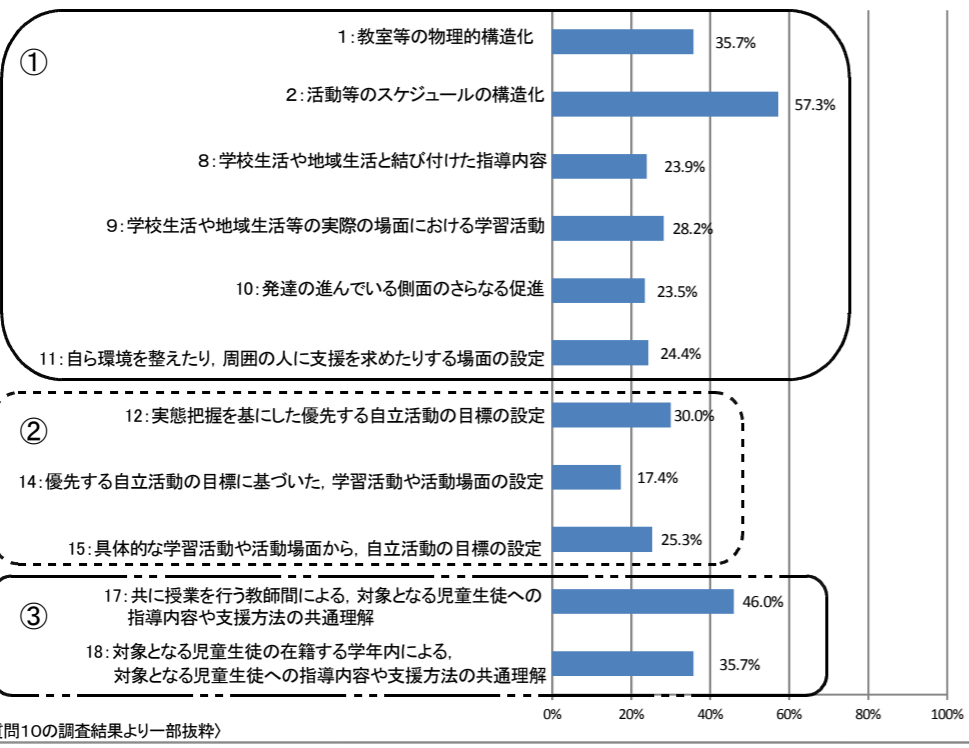


個別の指導計画に位置付けた自立活動の目標や指導内容等の活用 **N=174**



特別支援学級

自閉症のある児童生徒への自立活動を取り入れた指導・支援の取組 **N=213**
(回答者: 自閉症のある児童生徒が在籍する学級担任)



① **指導内容と支援方法の取組**
 ・環境調整を行っている学級は約3～5割程度です。
 ・特別支援学校の学習指導要領に示されている指導内容を設定する際の配慮事項に取り組んでいる学級は約2割です。
 ・自閉症のある児童生徒への指導・支援に困難さを抱えていることがうかがわれます。

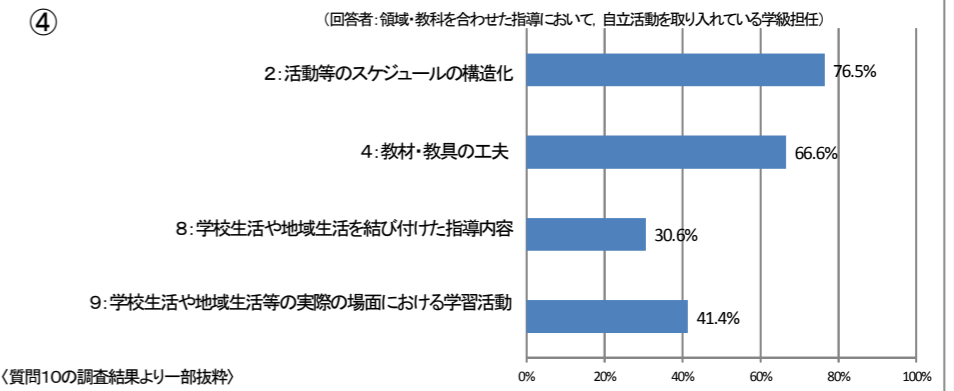
② **目標の設定**
 ・優先する目標を設定して学習活動を行っている学級は約3割です。
 ・具体的な学習活動等から目標を設定している学級も約3割です。
 ・特別支援学校と同様に、その時々活動に応じて目標を設定しながら学習を進めている学級が存在していることがうかがわれます。

③ **教師間の共通理解**
 ・共に授業を行う教師間で共通理解を行っている学級は約4割です。
 ・学年内での共通理解も4割弱にとどまっています。
 ・担任が校内で孤軍奮闘している様子が見られます。

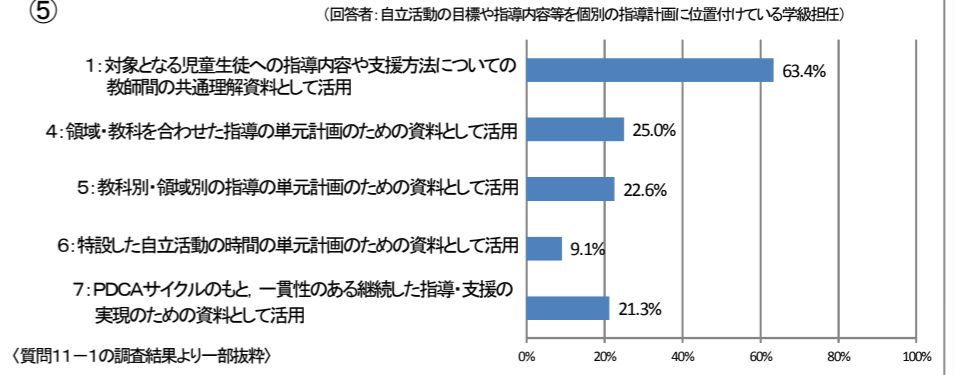
④ **指導形態のよさを生かした指導**
 ・領域・教科を合わせた指導において、学校生活や地域生活等に関する学習を取り入れている学級は約3～4割です。

⑤ **個別の指導計画の活用**
 ・特別支援学校に比べて、教師間の共通理解資料として活用している割合が低いです。
 ・単元計画への活用は特別支援学校よりもやや多いが、設定した目標等が授業に生かされていない様子が見られます。

領域・教科を合わせた指導において、自立活動を取り入れた指導・支援の取組 **N=111**



個別の指導計画に位置付けた自立活動の目標や指導内容等の活用 **N=164**

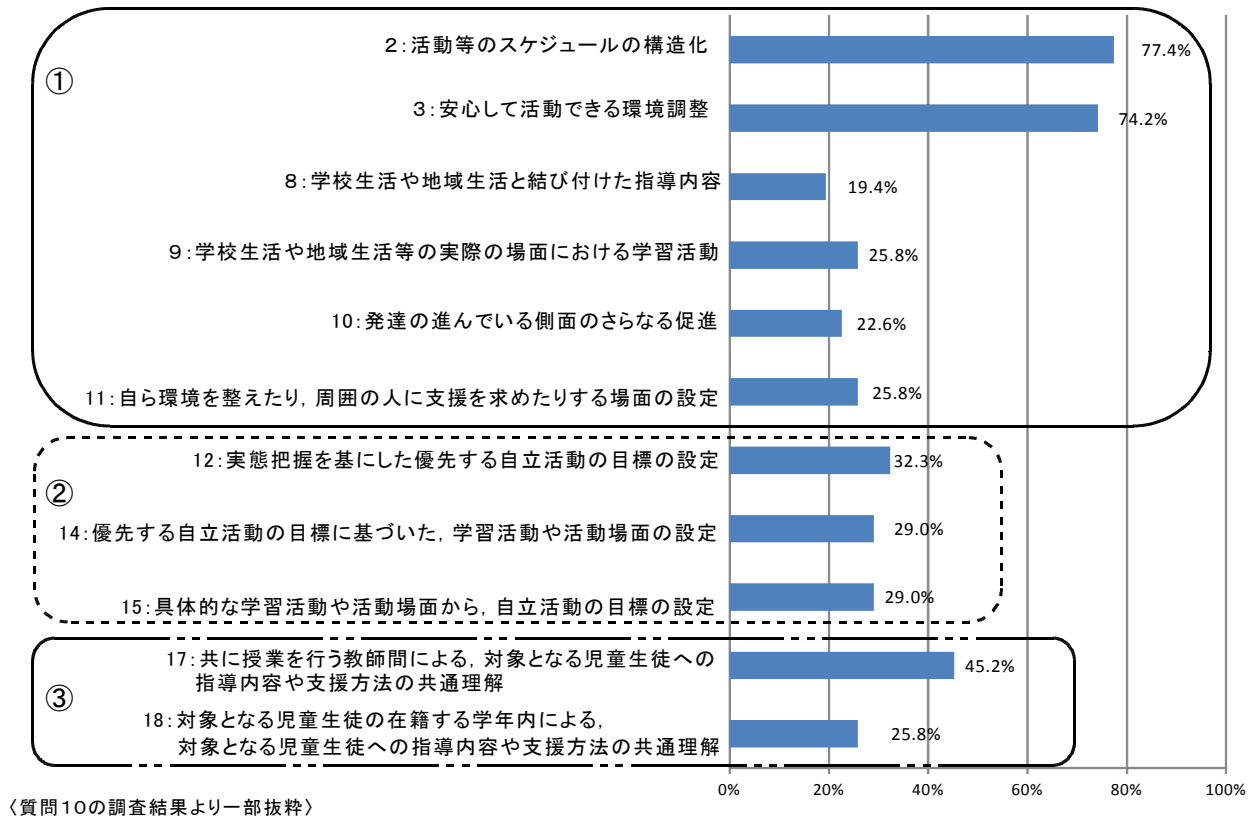


通級指導教室

自閉症のある児童生徒への自立活動を取り入れた指導・支援の取組

N=31

(回答者: 自閉症のある児童生徒が通級する教室の担当者)



① 指導内容と支援方法の取組

- ・ 自閉症の特性に応じた支援方法を行っている教室は約7割です。
- ・ 児童生徒にとって慣れない場所での学習であるため, このような支援方法を取り入れていることがうかがわれます。
- ・ 学校生活等を視野に入れた指導内容や学習活動を設定している教室は約2割です。
- ・ 特別支援学校の学習指導要領に示されている, 指導内容を設定する際の配慮事項に取り組んでいる教室も約2割です。

② 目標の設定

- ・ 目標や, 目標に基づいた学習場面や活動場面を設定している教室は約2~3割です。
- ・ 自立活動を取り入れた指導・支援を行う上で, 目標設定が曖昧なまま学習が進められていることがうかがわれます。

③ 教師間の共通理解

- ・ 共に授業を行う教師間による共通理解を行っている教室は約4割です。
- ・ 通級担当者のみが, 試行錯誤をしながら学習活動を進めていることがうかがわれます。
- ・ 日常的に話し合いを行うための時間や場の設定, 具体的な共通理解の進め方について, どのように取り組んでいけば良いのか, 難しさを感じていることがうかがわれます。

本調査の全集計結果及び「分析と考察」は, 当センターWebページに掲載しております。